

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	(株)ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風 グループホーム(1階)		
所在地	土岐市肥田浅野元町2-24		
自己評価作成日	平成30年9月17日	評価結果市町村受理日	平成30年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JieyosyoCd=2191800016-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の維持継続 ・自立支援介護の取り組み 根源的なニーズである「自立」を追い求める 一日の水分量 1500ML以上 歩行(離床) 食事 1500Kcal以上 排便 1日~3日に一度(下剤使用減) を職員全員が意識を持って、一人一人の利用者様に対して日々接していく。継続的に行い、他の拠点とも情報共有し、良い点を取り入れるなど改善を行いながら取り組んでいる。実際に下剤の使用が減る、抗精神薬の服薬が無くなるなど効果が見られている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は静かな住宅街の一角にあり、日頃から、散歩をしながら近隣と交流し、地域に根付いた運営をしている。家族や友人に気軽に来てもらいたいという思いから、玄関には手書きのウェルカムボードを置き、開かれた事業所としての工夫がされている。利用者の個性を大切にしながら、一人ひとりに向き合い、機能維持と回復の為、体を動かす機会として「ヨガ教室」を行っている。同法人のグループホームと情報を共有し、職員の経験に基づいたスキルを活かしながら、様々な事例を通して利用者サービスの向上に努めているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングの中で理念を確認し、職員全員が意識して業務に当たれるように話している。	日々、カンファレンスやミーティングの中で、理念について話し合い全職員で共有している。家庭的な環境の中で、利用者がゆったりと楽しく過ごせるよう、理念に基づいた支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「認知症になっても伴に暮らせるまちづくり」に参加、認知症に対する地域の理解を深める為に活動している。そこで行う行事には利用者の参加協力を得ている。	自治会に加入し、可能な限り地域の行事に利用者と一緒に参加している。また、事業所のイベントには近隣住民を招待し、相互交流を行っている。散歩時には、近所の人と挨拶を交わしたり、おしゃべりするなど、日常的な近所づきあいがあある。	地域で行われる美化運動や行事等に参加し、地域の一員としての役割を担える取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記の啓発運動に加え、認知症カフェに利用者と参加し、地域との交流の機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告、行事内容など写真を使いながら説明。ご家族からの意見を頂くが現状維持の内容が多い。介護保険についての勉強会を希望される声があり行政と相談して毎回テーマを決めて行うことにした。	運営推進会議に、より多くの参加が得られるよう、開催日を土・日曜日に設定している。事前に議題を伝え、参加できない家族からも意見を聞いている。また、行政の協力を得ながら、家族からの要望にも応えられるようにしている。	運営推進会議には、自治会長や民生委員など、地域関係者にも参加を依頼し、協力体制の構築に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法改正など、行政から説明や指導を受けている。行政主催の研修にも参加し、情報交換を行う。事故があった際や空き情報など、足を運んで協力関係を築いている。	行政担当者とは、窓口や電話で気軽に相談できる関係を築いており、運営推進会議でも協力を得ている。また、行政主催の会議や、口腔ケア、褥瘡予防等の研修には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回は身体拘束について研修を行う。なにが拘束に値するのかの理解を深め、安易な気持で行っていることが拘束にならないのか職員全体で考えるようにしている。	身体拘束や弊害について、定期的に学んでいる。長時間の車いす使用が拘束につながると認識し、椅子への移乗を安全にできるよう、手順を工夫しながら実践している。日中は玄関の施錠をしないが、安全面を考慮して夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・センター全体の会議の年間計画に研修が組まれており、理解し実践につなげている。言葉によるものもある事を伝え、聞かれた場合はその場で教えるよう声を掛けあうようにしている。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる人はいないが、家族からの相談にはのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約には時間を設け説明している。改定の際は会議や面会を利用、来所頂けない場合はお便りで説明しご理解を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望ノートを作成、利用者の言葉を拾うことを業務の一つとしている。小さなニーズも拾うようにしている。ご家族からは運営推進会議の場や、玄関に意見箱を設けている。後者は運営推進会議録にまとめ行政に提出している。	家族には、毎月の便りで利用者の様子を伝えている。面会時や電話の際、また、運営推進会議でも、様々な意見や要望を聞いている。利用者からは、日々の生活支援の中で要望を聞き、運営の改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談の場を設けずとも、常時気付いた際に話しをしてくれる為、即座に対応できるものに関しては行い、全員の意思を確認必要なものはカンファレンスの時間等に行っている。	職員は、会議や日常の業務の中で、積極的に改善に向けた提案をしている。管理者は、それらの要望に耳を傾け、職員の業務負担を考慮しながら、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や契約更新時の面談だけでなく日頃のコミュニケーションの中で個々に合った目標設定や、やりがいなどについて話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は回覧し、希望者にはシフトの調整を行っている。自社の研修に関しては、必要性のある職員に声を掛け参加を促している。日頃の育成にも目をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設連携会やボランティア活動で横の繋がりを、顔の見える関係作りをし、意見交流の中でサービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方の転居は大きなダメージに繋がれることを理解し、まずはグループホームでの集団生活に馴染めるよう努めている。その中で徐々に本人が発する声を拾い寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申込の時点で家族の困っている内容を伺っている。導入までの期間も不安に寄り添えるように傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自社でディサービスとショートステイを併設しているため、ご案内もしながら介護サービスの選択肢について説明申し上げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護であることを意識し、全てを職員がするのではなく、個々の残存能力を活かした暮らしができるように支援している。特に得意とするものには一緒に役に行い立てる喜びを感じて頂けるように携わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際だけでなく、お便りでも本人の状況をお伝えし必要があれば電話などでお話ししながら本人の為に一番いい方法を互いに考えながら利用者の日々の生活に役立てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や、入居前に属してみえた会合などご家族の協力を得ながら関係を維持していけるように努めている。併設するサービスで友人に会えることも多く、普段から行き来がある。	面会は自由にできるようになっており、気軽に職場仲間や近所の方の訪問がある。職員は、訪問者が「また来たい」と思えるよう雰囲気作りを心がけ、もてなしている。利用者は、隣接するデイサービスに出向き、友人と会話を楽しむことも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いを労わる姿が日々みられる。介入し過ぎることのないよう見守りをしている。認知症の進行により会話が難しい方もあるが、それを理解された方が上手く他者との交流に交えて下さることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後(転居後)にご本人を訪問している。ご家族からの相談があればいつでも応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で発せられる希望、要望を拾い記録として書き留め、職員内で情報共有する。本人の希望に沿えるように、どうすべきかを検討している。	日常の様々な場面で、利用者に寄り添いながら、会話や表情から思いを汲み取っている。それらを要望ノートや介護記録に残し、全職員で共有している。利用者の思いを反映できるようにレクリエーションや、行事を企画している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、基本情報から得るものだけでなく普段の会話の中から得られるもの、ご家族との会話からの情報も貴重なものとして記録し情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日課に対する関わり方や、精神状態・ADLを観察し、小さな気付きであっても報告し情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは面会時や電話、医療関係者からは来所時に個別で現状について話し合い、その上で職員でカンファレンスを行いプランを作成している。	家族に介護計画の原案を確認してもらい、要望を聞きながら作り上げている。職員は、利用者の暮らしぶりを考慮しながら作成に関わり、計画を達成できるように支援している。実践の中から気づいたことは、次の介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気付きであっても必ず情報共有を行い、話し合い、介護の統一を図るようにしている。実践、結果を再度話し合いプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良時には自施設他部所の看護師に相談することや、職員による通院介助もやっている。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、近所の方との交流、介護相談員派遣、認知症カフェでの交流等、地域の協力を受けながら安全で安心できる生活を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外のかかりつけ医への受診は家族にお願いをしている。協力医、かかりつけ医双方の情報提供も行っており、適切な医療・処方となるよう支援している。協力医は月2回の往診があり訪問看護師の来訪とで日頃の健康管理をして頂いている。	かかりつけ医の利用については、本人や家族の希望に沿うようにしている。協力医以外への受診は家族が付き添うが、利用者の健康状態などの情報を伝えて、適切な医療を受けられるよう支援している。協力医の往診や薬剤師の訪問もあり、気軽に薬の相談もできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問があり、その都度情報を提供している。異変時には協力医に連絡して下さり適切で早急な処置が可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーの提供、情報交換や相談を行っている。退院までの間に病棟へ本人の状態確認に行く、担当看護師に状態を電話で確認するなど退院後の生活に関し職員だけでなくご家族にも方針をお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取り指針を更に詳細に作成。本人、家族との話し合いの記録も記入。今まで口頭で説明していた事も指針に載せご家族も理解を深めて頂き施設任せでなく、一緒に終末期を支援するチームとなるよう取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期についての指針を説明している。家族から意向を聞き、必要に応じて、その都度確認をしている。医師からも家族への説明があり、話し合いを重ねながら対応方法を検討している。職員は定期的に看取りの勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の電話連絡、利用者の状態の的確な説明・報告ができるよう、日頃から指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施。夜間想定と他部所との連携・合同訓練。地域全体では防災訓練が実施されていないが、日頃の交流の中で災害時の共助について話をしている。	避難訓練は、「見守り役」として住民の協力を得ながら、利用者を安全に避難誘導できるようシュミレーションを行っている。また、緊急連絡網には、地域住民3名も列記してあり、地域の協力が得られる体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、接遇を何より大切にしている。研修も数を重ねるが、依然として慣れあいや尊厳を忘れた言葉掛けが聞こえる。その都度注意し、個別に話をすることもある。排泄時の声掛けなど特にプライバシーに注意するよう話している。	言葉遣いや接遇についての職員研修を行い、利用者の自尊心を損ねない対応や意識づけをしている。常に、「親しき仲にも礼儀あり」を心がけ、日常の対応で気になることがあれば、その場で話し合い改善するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を心掛けている。困難な際には二者選択等出来る範囲で確認している。出来ない方には表情を確認し笑顔を引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思い思いに過ごされる方には見守りを行ったり必要に応じて介入している。受け身の方に関しては情報・選択肢を提供することがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に出来る限り洋服を選んで頂くように支援している。季節感があるように助言することもある。お気に入りの化粧品をご家族に購入依頼することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下拵え、味見、配膳、食後の食器洗い・拭き・片付けまで一緒に行っている。得意な方にはキッチンに入って頂き調理まで行うことも多い。食事の頃には忘れてしまわれる方もありますが、話題にもあがり楽しい食事時間になっている。	食事作りは、利用者も出来る範囲で手伝っている。職員も同じものを一緒に食べ、味の感想を言い合いながら楽しい食事時間を共有している。メニューは本社で作られているが、利用者の好みを聞きながら、変更して提供することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3度の食事の度に食事量、水分量を確認し本人の健康状態だけでなく、咀嚼、嚥下を観察、提供する食事形態は相応しいのか確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	摂食状態も見ながら義歯の不具合はないかなど口腔ケアの際に確認。歯科衛生士、歯科医師とも相談し必要があれば介入を依頼している。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て誘導することで失敗が減少。実際にリハビリパンツから布のパンツへ変更した方もある。オムツや尿取りパッドの使用が減るように日々の関わりの中で実践したことと結果を話し合っている。	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレ誘導を行っている。利用者の状態や時間帯に合わせた排泄用品やパッドを使い分けたり、本人の要望と安全面の配慮から、ポータブルトイレを使うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1500mlの水分摂取と運動を促し下剤の使用減少に取り組んでいる。排便コントロールを行うことで不穏行動も抑えられ穏やかに過ごされている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴出来る体制をとっている。職員と一対一でゆっくりと入浴でき、普段話せないことでも色々話して下さる。大切な時間になっている。	入浴は通常週3回であるが、希望に応じて毎日入浴できるよう準備している。季節が感じられるよう、ゆず湯も取り入れている。入浴拒否の利用者には、声かけ方法を工夫したり、同性介助を希望する利用者には、シフト変更で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間は自由となっている。ソファでテレビを観ながら傾眠されることもある。夜間の安眠を確保するため日中は出来る限り活動的に過ごして頂きたく、ある程度はレクリエーションへの参加を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には必ず目を通し押印している。新しく処方された薬に関してはしばらく様子を見ながら医療関係者に報告を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、畑仕事など得意とすることをお任せし、職員が教えを乞うなどして役に立てる喜びを感じて頂いている。おやつ時に提供する飲み物は好みを伺いお出ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、散歩など行っている。家族の協力を得て美容院やお墓詣りに出掛けている。お弁当を皆で作って近所の公園へ出掛けたり道の駅へドライブにも行っている。	近隣の散歩や買い物、中庭での外気浴を日常的に行っている。季節の花見や紅葉狩りなど、ドライブを兼ねた外出を行うこともある。個々の馴染みの場所への外出支援は家族の協力を得ている。	

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の理解は得ているが、利用者は入居の時点で貴重品の管理が困難になっている。一緒に買い物へ出掛けた際には本人に会計を任せるが、必ず職員がついている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号の記憶、電話の使い方、手紙を書くことなど本人の残存能力として大切にしている。いつでも自由に電話がかけられるように支援している。手紙のやり取りも入所以来続けている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下には季節毎の飾りを利用者と一緒で作成し、見える所に置いている。和みや温かみを感じて頂けるよう光、音など配慮している。	共用の間は、ユニットごとに職員が季節感を出す飾り付けをしている。リビングで過ごす人が多いため、温湿度計の空調管理だけでなく、季節に応じて快適に過ごせるよう、ソファの配置を変えることもある。畳コーナーは、洗濯物をたたんだりする利用者の活動の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・畳みなど好きな場所でくつろいで頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、見慣れた家具を持参頂くようご家族に依頼している。馴染みの物を目にすることで家を離れても安心して生活できるようにお話ししている。	備え付けの広いクローゼットに荷物を収納し、整理整頓されている。テレビや時計、三面鏡など馴染みのものを持ち込み、作品や家族写真などを飾り、個々の好みに合わせた寛げる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札、浴室・トイレには認識しやすいように張り紙をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	(株)ユニマツトそよ風		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風グループホーム(2階)		
所在地	岐阜県土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	平成30年9月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	0	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	0	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が必ず見る所に理念を掲示し、共有しています。地域との関わりの中で認知症の方の生活を理解して頂けるように働きかけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、外出など近所の方との触れ合いの中で職員はパイプ役となり交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学生、中学生の職場体験の受け入れ子供100番の設置、センター内の夏祭りの実施など地域との交流の場を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの家族の参加があります。他の家族との思いを共有、面会時では話せないことも気軽に話して頂けます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行い、情報交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度の勉強会の中で1人1人が身体拘束の事を考え拘束のない介護をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束と同時に勉強会を行っています。1人1人が日常的に意識をしています。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方は現在はおみえになりませんが、今後あった場合には対応できるよう体制を整えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明を行い、不安や疑問などを伝えやすい関係を築けるように努めたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などから出たことは直ぐに対応し職員1人1人がサービス向上に努めます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の思いに耳を傾け受け止め、話しやすい環境作りを心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、仕事への姿勢等、しっかり評価しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の勉強会の広報誌の回覧しステップアップへの啓発に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や医療関係者が主催する勉強会に参加しネットワーク作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の思い、不安に思っている事の傾聴少しでも不安の軽減が出来るように声を掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の頑張りへの労い、今後の生活で本人と家族との新しい関係作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談した時点で空きがない時は多様なケースがある事を説明し支援の必要性に応じて他の施設の申込やサービスの紹介を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力の確認。出来ない事はお手伝いさせて頂く姿勢で寄り添います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族、お互いの思いを理解し穏やかな関係作りのお手伝いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら面会や外出が出来るようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流時は必ず見守り、必要に応じて介入しています。1人の時間を希望される方の思いも尊重しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から相談、近況報告も受けており気軽に立ち寄れる場所であるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で早期に思いを把握し安心して頂けるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者1人1人の情報収集、家族からの情報収集をしてサービスに反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で観察し、本人の思いを尊重し精神面、疾患も配慮し総合的に把握するよう努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームカンファレンスを行い日々の現状で何かあればすぐに対応できるように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残すことで全職員の情報共有につながりサービスの見直し、検討に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の家族と外出したいとの思いには家族と連携しています。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に1回のヨガでは週替わりで講師を招待しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を受けています。他の医療機関での適切な治療が受けられる体制作りもしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師の来訪時、日常の気付き等を報告、相談している。看護師から主治医への報告もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は病院関係者との情報交換を密に行い、今後の支援の方向性を検討する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所に説明し本人、家族の意向の確認をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて社内研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回、日中と夜間を想定して行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の立場になり、考えながら対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定が出来るように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活のリズムに合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにあった服装が出来るようにお手伝いをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら野菜の下ごしらいを手伝ってもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量に配慮し、体調管理をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	依頼のある方のみですが歯科医師、口腔衛生士の往診を依頼しています。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンや能力、習慣などの見極め必要に応じてお手伝いをします。チェック表の活用もしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘を予防できるような食材選びを心掛けています。水分摂取も促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望とタイミングに合わせて声掛けをしています。本人の気持ちに添って入られない時は時間を置き声掛けします。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけではなく、フロアなどで休息して頂く時もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には全職員が必ず目を通しています。薬の目的、副作用などの理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の誰かの役に立っているとの思いが感じられるように個々の能力に合った役割を持って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りの希望に添えるようにしています。外食や買い物も出掛けています。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は現在は職員がしていますが希望がある時は一緒に買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は電話の取り次ぎや手紙を出しに行く時もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は機能性も重要ですが安心出来る空間になるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外でも安心出来る場所を作り安心出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持って来て頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の能力を引き出せる様にしています。その中で出来る事を増やしています。		